

東京地区

令和7年度

橋梁技術発表会

講演会

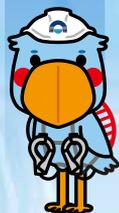
及び

— 伊藤學賞表彰式 —

参加費
無料

定員
650名

申込
先着順



第1部 技術発表	13:30~13:35	開会の辞 (一社)日本橋梁建設協会 会長 川田 忠裕
	13:35~14:10	① 大型試験桁を用いた金属溶射の耐久性調査 ~沖縄地区での21年目調査報告~ 製作小委員会
	14:10~14:45	② 都心住宅街に位置する幹線道路と高速出入口の交差点における橋梁架設 ~ヤード制約が多い中で既設構造物との干渉に配慮した曲線桁の送出し架設~ 架設小委員会②
	14:45~14:50	休憩
	14:50~15:25	③ 「ケン・ブリッチくん」と行く保全工事の世界 ~トラス橋ってどんな橋?特徴を理解して健全に橋を守ろう!~ 保全委員会
	15:25~15:35	休憩
第2部 伊藤學賞 表彰式	15:35~16:05	① 受賞者紹介 他
	16:05~16:25	② 表彰式
	16:25~16:35	休憩
第3部 特別講演	16:35~17:35	伊藤學賞受賞記念講演 鋼橋の疲労研究55年 東京都市大学 名誉学長 三木 千壽 
	17:35~17:40	閉会の辞 橋梁技術発表会 実行委員会 委員長 本田 政樹

日時 令和7年 **10月3日(金)** 13:30~17:40

会場 **銀座ブロッサム(中央会館)ホール**
東京都中央区銀座2-15-6

申し込み Webサイト <https://www.jasbc.or.jp/>
受付は令和7年9月3日~9月23日
※申し込みは、Webサイトからのみです。

連絡先 一般社団法人 日本橋梁建設協会
〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11 西新橋光和ビル9階
TEL.03-3507-5225

継続教育 CPDS対象【3ユニット】

開催地区 ●東京地区:10月3日(金) ●中部地区:11月7日(金)
●大阪地区:10月17日(金) ●九州地区:11月21日(金)
●北海道地区:10月24日(金) ●東北地区:12月4日(木)
(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)

資料配布 会場では配布いたしません。必要に応じてWebサイトより出力し持参願います。9月27日掲載予定

【アクセス】



●東京メトロ有楽町線「新富町駅1番出口」徒歩1分
●東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線「東銀座駅3・5番出口」徒歩8分

主催:  一般社団法人 日本橋梁建設協会
Japan Bridge Association

<https://www.jasbc.or.jp/>

1 大型試験桁を用いた金属溶射の耐久性調査

鋼構造物における維持管理コスト低減と長寿命化を目的として、様々な防食方法が検討されているが、金属溶射も有効な手段のひとつであり、鋼道路橋塗装・防食便覧(平成17年12月 社団法人日本道路協会)に代表的な防食技術として掲載されたことにより、施工事例も増加しています。しかし、鋼橋の防食方法として金属溶射が本格的に採用されるようになってからまだ日が浅く、金属溶射の耐久性に関するデータが少ないこと、試験板を用いた促進試験が主であることが実状です。このため、(一社)日本橋梁建設協会では、(国研)土木研究所との共同で、腐食環境の厳しい沖縄地区において金属溶射の耐久性検証を目的として、大型試験桁を用いた暴露試験を2002年6月から開始しました。

本報告は、暴露21年目までの調査結果について報告します。

2 都心住宅街に位置する幹線道路と高速出入口の交差点における橋梁架設

首都圏の渋滞緩和、環境改善、円滑な交通ネットワークの構築を目的とした東京外かく環状道路の延伸工事に伴い、大泉ジャンクションにて関越自動車道と外環自動車道延伸部との接続ランプ橋梁・橋脚を架設しました。

本工事では、住宅街近傍での狭小な施工ヤードに加えて地下埋設物が横断するなど制約が多い中、さらに近接した既設構造物との干渉にも配慮する必要があり、送出し構台の配置や送出し線形の設定、ガイド設備、手延機のたわみ処理などに工夫をして曲線桁の送出し架設を実施しました。本発表では、送出し架設での工夫のほか、ヤード制約がある中での鋼製橋脚の架設、床版コンクリート施工についても工夫した点を中心に報告します。

3 「ケン・ブリッチくん」と行く保全工事の世界

ドライブをしていると道路や線路などでトラス橋を目にすることがあると思います。トラス橋は軽量で桁橋に比べて支間を長くすることが可能であるため、長年に渡り河川や山間部にて建設されてきました。また、歴史的に貴重な橋梁も残っており、それらを含めて現在でも数多くのトラス橋が現役で活躍しています。トラス橋はスレンダーで大変美しい橋梁形式ですが、部材の軸方向に作用する力にだけ抵抗することができる軸部材で構成されています。この大変重要な特徴を踏まえて維持管理(補修・補強)を行わなければ健全な構造を維持することができません。本発表では、トラス橋の構造的特徴を示したうえで、それらを踏まえた損傷事例や補修・補強事例、既設橋梁の状態を把握するための現地踏査や現地計測技術についてご紹介します。

特別講演会 講演者紹介

東京都市大学 名誉学長 **三木 千壽**

講演テーマ

鋼橋の疲労研究55年

【略歴】

1972 東京工業大学 土木工学専攻修士課程修了
1972 東京工業大学 助手(工学部)
1990 東京工業大学 教授(工学部)
2003 東京工業大学 理工学研究科長、工学部長
2005 東京工業大学 理事、副学長(教育・国際担当)
2012 東京都市大学 特任教授(総合研究所)
2015 東京都市大学 学長
2025 東京都市大学 名誉学長
現在に至る

【講演概要】

土木分野では関心の低かった溶接構造の疲労を研究して55年、大学の小さな実験と本州四国連絡橋の大型疲労試験の組み合わせから得られた知見は、新しい疲労設計方法と品質管理の構築につながりました。東海道新幹線、東名高速道路、首都高速道路などの疲労損傷の調査とその対策は、レトロフィッティング技術の展開につながりました。橋梁用高性能鋼材からは、新たな橋梁構造の可能性が見えてきました。

令和7年度

橋梁技術発表会

東京地区

10月3日(金)

参加申込方法▶



一般社団法人 **日本橋梁建設協会**
Japan Bridge Association

ホームページよりお申込み下さい。

<https://www.jasbc.or.jp/>

「技術発表会」の
申し込みはこちら。